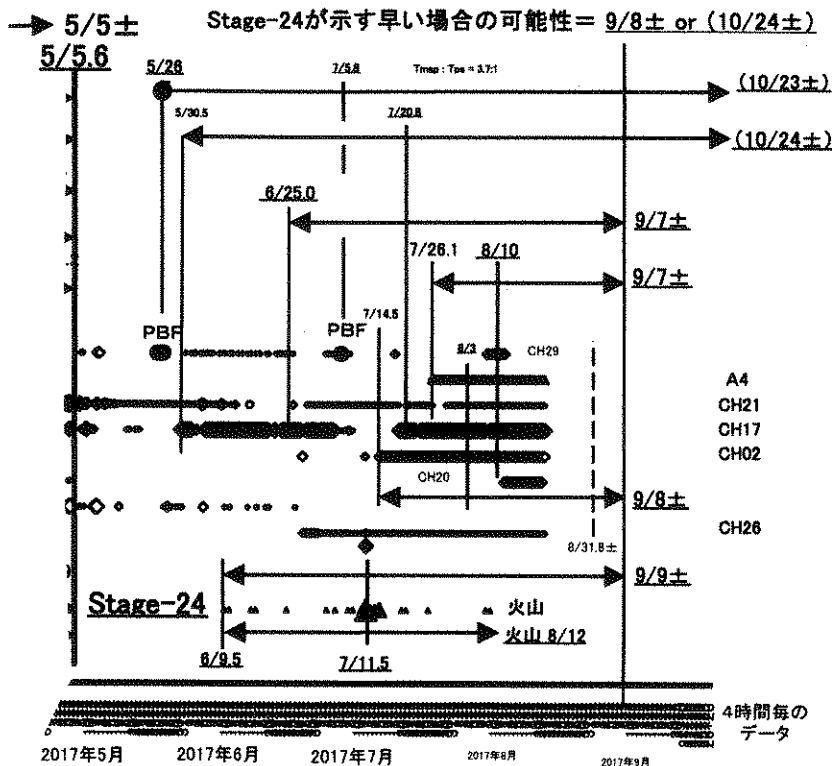


原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778長期継続前兆続報 CH29・CH20 静穏化 前兆静穏化傾向

Stage-24 早い場合の推定=9/22±ではなく 今月末に前兆静穏化の場合→ 9/8±の可能性有



E-mail又はFAXで日々配信報告しております「地震前兆検知・観測情報」では、8/13配信の観測情報で既にNo.1778長期前兆の現在第24ステージの前兆動向から、9/22±よりも、9/8±の可能性の方が考え易いことを報告済でした。PHP新書「地震予報読者の皆様へのHP」での報告が遅くなりましたことお詫ひ申し上げます。

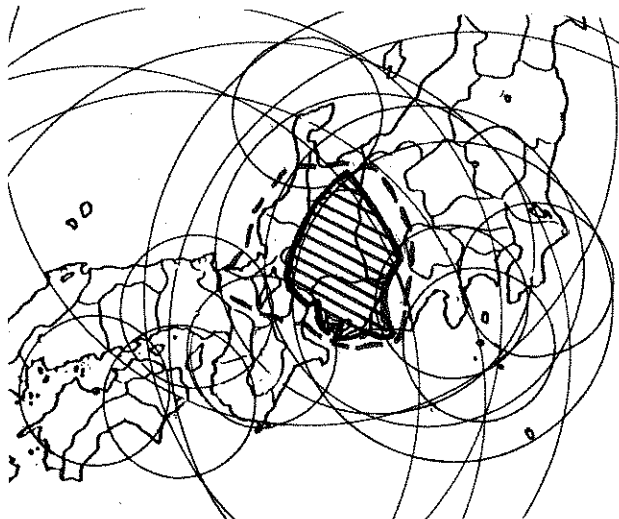
前回の続報では、CH29にも特異前兆が継続出現した時点迄でした。そのCH29は8/11深夜には終息致しました。また8/11より新たに出現したCH20特異は本日午前8時頃静穏化したしました。現在継続中前兆は左下のとおりです。

以上の現在迄の前兆関係をあらためて見ますと、左図中に書き込んだとおり、9/22±よりも9/8±を示す関係の方が考えやすい状況です。また10/24±の可能性も否定はできませんが、現状では、それほど長い期間は考えにくい状況です。7/11極大認識のN型火山前兆も、複数日出現の対応して、焼岳地震活動+噴気のみでは、前兆に対する活動が小さい様に思いますが、L型火山前兆初現~N型火山前兆の関係を通常地震前兆経験則に当てはめると、9/9±が計算されます。火山前兆で通常地震前兆経験則が適用された例は過去にはありませんので、あくまでも参考です。

いずれにしても、現在認識される8/10が最終極大で、その後極大が無い場合、仮に9/8±が対応活動時期である場合は、今末日深夜に前兆終息の可能性が計算できます。

今後の観測で修正の可能性もありますが、今月末に前兆終息が観測されるか、前兆変化を注視して観測を続け、続報させて頂きます。なお、最近までの特異前兆の出現状況と主なPBF出現影響局を合わせ、領域推定を再実施しますと、左図のとおり、今までより若干東側領域(長野県)まで可能性が広がります。

- A4=特異: 徐々に静穏基線に近づく傾向
- CH02=特異: 糸状特異継続中
- CH17=特異: 糸状特異継続中
- CH21=特異: 弱い特異継続中、但し特異静穏傾向
- CH26=特異: 弱い特異継続中、特異極めて微弱傾向



- ◆推定領域: 左図 点線領域内=大枠推定領域
太線内斜線領域=可能性が考えやすい推定領域
(※ある程度火山に近い領域の可能性有)
- ◆推定規模: M7.8±0.5 震源浅い日本列島の陸域地殻地震推定
(※複数のPBF前兆出現からPBF継続時間計測定より算出)
- ◆推定時期: 前兆完全終息迄発生時期計算できません。
但し、現段階で考えられる可能性=9月8日±1
(9月8日±の場合は今月末に前兆静穏化が条件)
(9月初旬段階で前兆継続の場合、発生はより先)
- ◇推定発生時刻: 午前9時±1時間(又は午後6時±3時間)
(※複数の基線幅増大BT前兆日々変化時刻測定より)